柔道整復師国家試験の外科学概論出題傾向について
―第14回から第26回の出題について―

田辺 達磨[1, 2)]，大澤 裕行[1)]，松本 揚[1, 2)]，田村 哲也[1)]，
根岸 春樹[1)]，神長 まどか[1, 2)]，末吉 祐介[1)]，岡村 知明[1, 2)]，
角田 佳貴[1)]，長谷川 龍成[1, 2)]，高山 明莉[1)]，野田 哲由[1, 2)]

了徳寺大学・健康科学部整復医療・トレーナー学科[1)]
了徳寺大学・ウェルネストレーニングセンター[2)]

要旨

「背景」柔道整復師国家試験は現在まで26回実施されている．第26回合格率は58.4％であった．合格率は過去最低であり，養成施設において国家試験対策は失敗，また国家試験対策を見直す必要があると考えられる．国家試験出題傾向については数多く報告がなされているが，国家試験科目の１つである外科学概論については，まだ分類報告はなされていない．今回，我々は第1回～第26回の国家試験科目である外科学概論の出題傾向を分類した．

「目的」柔道整復師国家試験対策における教育効果を向上し，合格率を向上させるために，これまでの外科学概論における国家試験出題傾向を調査，分析した．

「方法」全国柔道整復学校協会監修の外科学概論の目次に従い詳細に分類した．

「結果･考察」一般問題では出題頻度の高い項目は脳神経外科疾患, 損傷, ショックであり, 必修問題では, ショック，損傷，炎症と外科的感染症であった．このことから，外科学概論を学習するにあたって脳神経外科疾患，ショックの範囲を確実に理解することで学習効率の向上が期待できると考えられた．

キーワード：柔道整復師国家試験，外科学概論，国家試験対策

Tendencies about the Surgery Questions in the National Examination of Judo Therapy Practitioners

Tatsuma Tanabe[1, 2)] , Hiroyuki Ohsawa[1)] ,Yo Matsumoto[1, 2)] , Tetsuya Tamura[1)] ,
Haruki Negishi[1)] , Madoka Kaminaga[1, 2)] , Yusuke Sueyoshi[1)] ,Tomoaki Okamura[1, 2)] ,
Yoshiki Tsunoda[1)] , Tatsunari Hasegawa[1, 2)] , Akari Takayama[1)] , Tetsuyoshi Noda[1, 2)]

Department of Judotherapy and Sports Medicine，Faculty of Health Sciences，Ryotokuji University[1)]
Wellness Training Center, Ryotokuji University[2)]

Abstract

“Background”：The national examination for judo therapy practitioners（NEJTP）was carried out 26 times in the past. The passing rate for the latest examinati on was 58.4% which was the lowest in the

history of the NEJTP. The low passing result was considered as a failure in facilitating an adequate preparation by the Judo Therapy schools. In addition, re-examining the preparation for the NEJTP was necessary. Although many questions were well reported, the surgical science which was a part of the NEJTP content was not known as information. Therefore, this research was to classify the questions about the surgical science which were chosen from all 26 NEJTP.

"Objective"：The frequent questions on the surgical science were researched and analyzed in order to improve the educational effects and passing rate in the NEJTP.

"Method"：The questions were classified in detail according to the table of contents of the overview of the surgical science edited by the National Association of Judo Therapy.

"Results/Discussion"：In general questions, items with a high frequency of questions were neurosurgical diseases, injuries, shocks. In the required questions, shock, injury, inflammation and surgical infections were most frequently asked. Hence, the preparation could be effectively carried out in the areas of neurosurgical diseases and shocks in studying the general theory of surgery.

Keywords：national examination for judo therapist, Introduction to surgery, countermeasure of the national examination.

Ⅰ．背景

柔道整復師国家試験（以下，柔整国試）は現在まで26回実施されている．第1回柔整国試では1066人，第 26回柔整国試では6321人が受験をしており，第1回に比べて受験者は著しく増加している．その柔整国試の合格率は，第26回柔整国試では58.4％であった．第1回柔整国試では90.3％であったことから，第1回に比べると合格率は低下している．また第2回から公表されている新卒者合格率は92.4％，第26回柔整国試の合格率は，78.5％となっており，過去最低であった．柔道整復師を養成する学校では技術だけでなく，柔整国試の合格率を100％にすることを目標に掲げているところが多い．松本ら[1]は養成施設で行われている国家試験対策が国家試験合格率に効果をあげていないと報告しており，養成施設において国家試験対策は失敗ともいえる．国家試験対策を見直す必要があると考えられる．

また，柔道整復師の数は今後も増え続けることが予想される．平成10年度14校であった養成施設は平成27年度には109校と実に8倍近く増えており，質の良い学生の確保，良い人材育成は養成施設にとって重要な課題であり，その対策が必要である．

今回我々は，柔整国試の合格率をあげることを目標に，その傾向を調べることとした．まず柔整国試について説明する．柔整国試は必修問題30問と一般問題200問で構成されている．出題科目は，解剖学，生理学，運動学，病理学概論，衛生学・公衆衛生学，一般臨床医学，外科学概論，整形外科学，リハビリテーション医学，柔道整復理論，関係法規である．合格基準は必修問題が30問中の8割にあたる24問以上，一般問題は200問中の6割以上にあたる120点以上を取得することで合格となる．

国家試験科目にある外科学概論は国家試験問題230問のうち12問を外科学概論が占めている．30問の必修問題のうち1問が，200問の一般問題では11問を外科学概論が構成している，末吉ら[2]は過去，国家試験で出題された問題を分類，分析することは国家試験対策を考える上で重要であり，出題頻度の多い項目を重点的に学習することで，国家試験対策をより効率的に行うことができ，国家試験合格率向上に役立つと考えられると報告している．国家試験問題の出題傾向に関する報告では，柔道整復理論の出題傾向を分類

した報告が6件[1) 3) 4) 5) 6) 7)]，解剖学の出題傾向を分類した報告が2件[8) 9)]，生理学の出題傾向を分類した報告が1件[10)]，一般臨床医学の出題傾向を分類した報告が1件[11)]，リハビリテーション医学を分類した報告が1件[2)] ある．外科学概論については，まだ分類報告なされていない．国家試験対策を考える上で，出題傾向を知ることは重要であることから，今回，我々は第1回～第26回の国家試験科目である外科学概論の出題傾向を分類した．

Ⅱ．目的

柔整国試対策における教育効果を向上し，合格率を向上させるために，これまでの外科学概論国家試験の出題傾向を調査，分析した．

Ⅲ．方法

国家試験において出題された外科学概論の問題（一般問題142問，必修問題13問）を対象とした．対象とした問題について，全国柔道整復学校協会監修の外科学概論[12)] の目次に従い詳細に分類した．分類できない問題は分類不能として扱った．尚，必修問題が導入された第14回～第26回までを分類した．

Ⅳ．結果

一般問題問のうち，最も出題頻度が高かった項目は，脳神経外科疾患26問（18%）であった．次いで損傷15問（11%），ショック11問（8%）の順に出題数が多かった（図1）．

必修問題13問のうち，最も出題頻度が高かった項目はショック5問（38%）であった．次いで損傷3問（23%），炎症と外科的感染症3問（23%），であった（図2）．

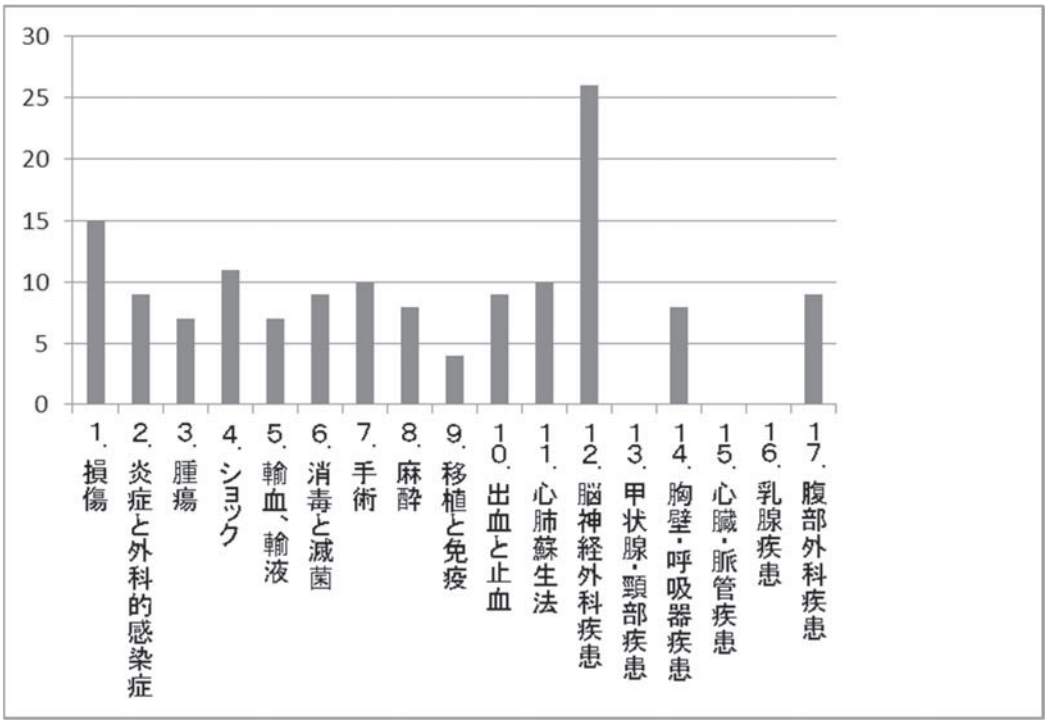

図1　外科学概論一般問題の問題数

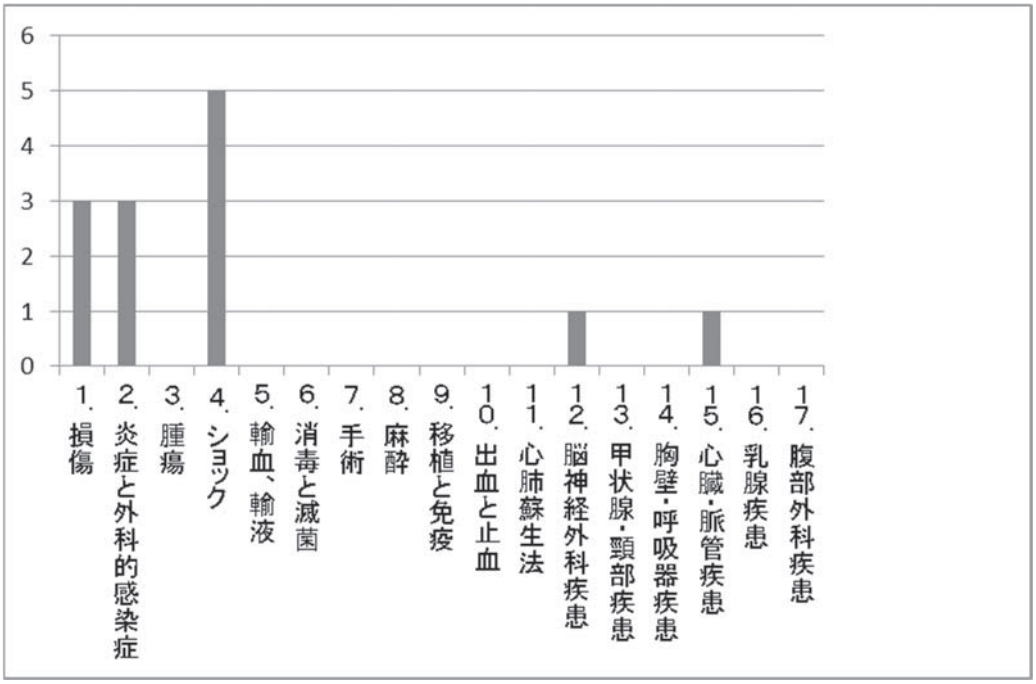

図2　外科学概論必修問題の問題数

V．考察

一般問題では出題頻度の高い項目は脳神経外科疾患，損傷，ショックであり，必修問題では，ショック，損傷，炎症と外科的感染症であった．一般問題では脳神経外科疾患が他の項目より倍の問題数出題されている．柔道整復師業務において確定診断はできないものの，評価をすることは可能である．そのため，緊急を要する内科的疾患，脳神経症状などの病態において熟知しておく必要性があると考える．脳神経症状の知識や応急処置などを理解していれば，柔道整復師が起こす医療事故を減らすことが可能かと考える．このような知識も必要とされることから，出題頻度が高かったと考えられる．また，必修問題で最も出題頻度の高い項目であったショックは，急性外傷を専門分野とする柔道整復師にとって，外傷を治療することは勿論，ショックに対する知識も必須であると考える．そのため，国家試験での必修問題出題頻度が高いのではないかと考えられる．

今回，全国柔道整復学校協会監修の外科学概論[12]の目次に基づいて分類を行ったが，分類できない問題が存在した．このことから教科書のみ学習した場合，解答できない問題が存在することを示唆している．国家試験対策として外科学概論を学習する際は，教科書を網羅し，理解することは必要であるが，教科書以外の他の医学書も参考にする必要性が示唆される．

末吉ら[2]は高齢化を背景に柔道整復師の需要は益々，増大することが考えられ，また就業柔道整復師の数は増え続けているが，一方で柔道整復師の質の低下も懸念されており，残念ながら不正請求により摘発される接骨院も存在すると報告している．平成30年度より柔道整復師養成施設のカリキュラムが改訂された．改訂により授業単位と実習単位が増加することで，質の高い柔道整復師を養成する狙いがある．カリキュラム改訂に伴い，養成施設に求められるものは，より質の高い教育と国家試験の高い合格率であると考える．

今回，国家試験科目である外科学概論の出題傾向を分類した．一般問題では出題頻度の高い項目は脳神

経外科疾患，必修問題では，ショックであった．このことから，外科学概論を学習するにあたっては脳神経外科疾患，ショックの範囲を確実に理解することで学習効率の向上が期待できると考えられた．

Ⅵ．文献

1） 松本揚，岡田隆，岡村知明ほか（2015）柔道整復師国家試験必修問題に出題された柔道整復理論の出題傾向．了徳寺大学研究紀要. 9, 97-101.

2） 末吉祐介，松本陽，大澤裕行ほか（2018）柔道整復師国家試験科目，リハビリテーション医学における出題傾向．了徳寺大学研究紀要. 12,49-52.

3） 松本揚，野田哲由，末吉祐介ほか（2018）柔道整復師国家試験の必修問題の出題傾向について―第14回から第25回までの出題について―．了徳寺大学研究紀要. 12. 69-74.

4） 田辺達磨，松本揚，大澤裕行（2015）柔道整復師国家試験に出題された問題の傾向―柔道整復理論に着目して―．了徳寺大学研究紀要. 9, 79-83.

5） 服部辰広，久保山和彦，猪越孝治ほか（2016）第13回～第23回柔道整復師国家試験における必修問題の出題分析―柔道整復理論154問の分析より―．日本体育大学紀要. 45, 113-117.

6） 服部辰広，久保山和彦，猪越孝治ほか（2016）第18回～第24回柔道整復師国家試験における一般問題の出題分析―柔道整復理論245問の分析より―．日本体育大学紀要. 46, 39-44.

7） 服部辰広，久保山和彦，猪越孝治（2017）柔道整復師国家試験における臨床実地問題の出題傾向について―専門分野から出題された 187問の調査・分析― 46, 159–163,

8） 角田佳貴，田村哲也（2017）柔道整復師国家試験に出題された問題の傾向―解剖学に着目して―．了徳寺大学研究紀要. 11, 63-67.

9） 角田佳貴，田村哲也（2018）柔道整復師国家試験における解剖学の出題傾向了徳寺大学研究紀要. 12,61-67.

10）長濱節子（2016）柔道整復師国家試験問題生理学分野の傾向分析（2）―はり師･きゅう師，あん摩マッサージ指圧師，理学療法士・作業療法士の各国家試験問題との比較傾向分析―．帝京平成大学紀要. 27, 25-37.

11）末吉祐介，松本陽，大澤裕行ほか（2017）柔道整復師国家試験科目一般臨床医学における出題傾向．了徳寺大学研究紀要. 11, 47-52.

12）公益社団法人柔道整復学校協会監修（2013）外科学概論改訂第4版，南江堂，東京. 3-227.

13）公益社団法人柔道整復試験財団 http://www.zaijusei.com/introduction_1_shiken.html（2018.11.23 9:00 アクセス）